

平成25年度採択プログラム 中間評価調査

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	東京大学	整理番号	T01
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) このかみ まこと 氏名・職名 五神 真 (東京大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) みついし まもる 氏名・職名 光石 衛 (東京大学大学院工学系研究科長・教授)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) おおかたじゅんいちろう 氏名・職名 大方 潤一郎 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・教授/高齢社会総合研究機構・機構長)		
4. 類型	T<複合領域型(横断的テーマ)>		
5.	プログラム名称	活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム	
	英語名称	Graduate Program in Gerontology : Global Leadership initiative for Age-Friendly Society	
	副題		
6. 授与する博士學位分野・名称	博士(社会学),博士(社会心理学),博士(教育学),博士(法学),博士(学術),博士(工学),博士(農学),博士(獣医学),博士(医学),博士(保健学),博士(環境学),博士(情報理工学) 付記する名称:活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム修了		
7. 主要分科	(① ケア学) (② 社会学) (③ 建築学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 人間情報学、情報学フロンティア、生活科学、地理学、社会・安全システム科学、健康・スポーツ科学、哲学、法学、政治学、経済学、心理学、教育学、材料科学、機械工学、電気電子工学、土木工学、プロセス・化学工学、ゲノム科学、生産環境農学、農芸化学、水圏応用科学、社会経済農学、農業工学、動物生命科学、基礎医学、境界医学、社会医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学、看護学		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンライン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 <small>(主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)</small>	高齢社会総合研究機構、【工学系研究科】社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻、機械工学専攻、精密工学専攻、化学システム工学専攻、先端学際工学専攻 【人文社会系研究科】社会文化研究専攻 【教育学研究科】総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻 【法学政治学研究科】総合法政専攻 【総合文化研究科】広域科学専攻 【農学生命科学研究科】生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物科学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、獣医学専攻 【医学系研究科】社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻、国際保健学専攻、健康科学・看護学専攻 【新領域創成科学研究科】先端エネルギー工学専攻、メディカル情報生命専攻、人間環境学専攻、社会文化環境学専攻 【情報理工学系研究科】知能機械情報学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	ミシガン大学ジェロントロジー研究機構、オックスフォード大学高齢社会研究所、ミズーリ大学法科大学院、シンガポール国立大学 Duke-NUS 医学大学院 Health Services & Systems Research、ソウル大学ジェロントロジー・トランスレーショナル研究センター		

14. プログラム担当者の構成 計 66 名					
外国人の人数		6 人	[9 %]	女性の人数 17 人 [26 %]	
プログラム実施大学に属する者の割合 [71.2 %]					
プログラム実施大学に属する者			47 人	プログラム実施大学以外に属する者 19 人	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			35 人	そのうち、大学等以外に属する者 10 人	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成27年度における役割)
(プログラム責任者) 光石 衛	ミツイ マモル		大学院工学系研究科長・教授	医用工学、生産工学／工学博士	事業総括、プログラムの企画推進調整
(プログラムコーディネーター) 大方 潤一郎	オホカ タツノイチロウ		大学院工学系研究科都市工学専攻・教授／高齢社会総合研究機構・機構長	都市計画工学博士	プログラムの企画推進調整、運営委員会委員長、居住環境分野担当
秋山 弘子	アキヤマ ヒロコ		高齢社会総合研究機構・特任教授	老年学 Ph. D.	社会システム分野担当、カリキュラム編成担当、国際連携推進担当
辻 哲夫	ツジ テツオ		高齢社会総合研究機構・特任教授	在宅医療、ケア政策、社会保障政策法学士	ケアシステム分野担当、カリキュラム編成担当、産官学民連携推進担当
田中 敏明	タナカ トシキ		高齢社会総合研究機構・特任教授	リハビリテーション科学、理学療法、福祉工学博士(工学)	生活サポートシステム分野担当
飯島 勝矢	イジマ カツヤ		高齢社会総合研究機構・准教授	老年医学、老年学医学博士	ケアシステム分野担当、カリキュラム編成担当
武川 正吾	タケカワ ショウゴ		大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻・教授	福祉社会学社会学修士	社会システム分野担当
白波瀬 佐和子	シラハセ サワコ		大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻・教授	社会学博士号(D. Phil)	社会システム分野担当
牧野 篤	マキノ アツシ		大学院教育学研究科総合教育学専攻・教授／高齢社会総合研究機構・副機構長	社会教育学、生涯学習論博士(教育学)	社会システム分野担当、カリキュラム編成担当
東郷 史治	トウゴウ シメサル		大学院教育学研究科総合教育学専攻・准教授	教育生理学博士(教育学)	ケアシステム分野担当、プログラム評価担当
北村 友人	キタムラ ユウト		大学院教育学研究科学校教育高度化専攻・准教授	教育政策、国際教育開発論 Ph. D.	社会システム分野担当、国際連携推進担当
加藤 淳子	カトウ ジュンコ		大学院法学政治学研究科総合法政専攻・教授	政治学政治学博士	社会システム分野担当、国際連携推進担当
樋口 範雄	ヒグチ ノリオ		大学院法学政治学研究科法曹養成専攻・教授	英米法、医事法、信託法法学士	社会システム分野担当、国際連携推進担当
岩村 正彦	イワムラ マサヒコ		大学院法学政治学研究科法曹養成専攻・教授	社会保障法法学士	社会システム分野担当、カリキュラム編成担当
岩本 康志	イワモト ヤシシ		大学院経済学研究科現代経済専攻・教授	公共経済学経済学博士	社会システム分野担当、カリキュラム編成担当
荒井良雄	アライ リョウオウ		大学院総合文化研究科広域科学専攻・教授	人文地理学博士(工学)	社会システム分野担当、フィールド演習企画担当
原田 昇	ハラタ ノボル		大学院工学系研究科都市工学専攻・教授	都市交通計画工学博士	居住環境分野担当
羽藤 英二	ハフウ エイジ		大学院工学系研究科社会基盤学専攻・教授	都市計画、交通計画博士(工学)	居住環境分野担当
大月 敏雄	オホツキ トシオ		大学院工学系研究科建築学専攻・教授	建築計画博士(工学)	居住環境分野担当、カリキュラム編成担当
中尾 政之	ナカオ マサキ		大学院工学系研究科機械工学専攻・教授	生産技術、ナノ転写、失敗学博士(工学)	生活サポートシステム分野担当、産官学民連携推進担当
浅間 一	アサマ ハジメ		大学院工学系研究科精密工学専攻・教授	ロボット工学工学博士	生活サポートシステム分野担当
大久保 達也	オホクベ タツヤ		大学院工学系研究科化学システム工学専攻・教授／総括プロジェクト機構プラチナ社会総括寄付講座・教授(兼務)	プラチナ社会、化学工学、ナノ材料工学博士	生活サポートシステム分野担当
巖淵 守	イワツチ マモル		先端科学技術研究センター・准教授	支援工学／工学博士	生活サポートシステム分野担当
安永 円理子	ヤスナガ エリコ		大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構・准教授(同研究科生物・環境工学専攻兼任／生産・環境生物学専攻兼任)	ポストハーベスト工学博士(農学)	食分野担当
阿部 啓子	アベ ケイコ		大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻・特任教授	食品科学、味覚科学、遺伝子科学農学博士	食分野担当、産官学民連携推進担当
佐藤 隆一郎	サトウ リウイチロウ		大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻・教授	食品生化学農学博士	食分野担当、プログラム自己評価・外部評価担当

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
潮 秀樹	ウオ ヒデキ		大学院農学生命科学研究科水圏生物学専攻・教授	水産化学・食品科学 博士(農学)	食分野担当
中嶋 康博	ナシマ ヤシロ		大学院農学生命科学研究科農業・資源経済学専攻・教授	農業経済学、フードシステム論 農学博士	食分野担当
関崎 勉	セザキ キツム		大学院農学生命科学研究科食の安全研究センター長・教授(同研究科応用動物科学専攻兼任、獣医学専攻兼任)	獣医細菌学、食品病原微生物学 獣医学博士	食分野担当
橋本 英樹	ハシモト ヒデキ		大学院医学系研究科社会医学専攻・教授	医療経済学、社会学 博士(医学)	ケアシステム分野担当、社会システム分野担当、フィールド演習企画担当
秋下 雅弘	アキタ マサヒロ		大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学専攻・教授(高齡社会総合研究機構・副機構長)	老年医学 博士(医学)	ケアシステム分野担当、カリキュラム編成担当
小川 純人	オガワ スミト		大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学専攻・講師兼教授	老年医学 博士(医学)	ケアシステム分野担当
本間 之夫	ホンマ ユキオ		大学院医学系研究科外科医学専攻・教授	泌尿器外科学 医学博士	ケアシステム分野担当
芳賀 信彦	ハガノ ノブヒコ		大学院医学系研究科外科医学専攻・教授	リハビリテーション医学 博士(医学)	ケアシステム分野担当
神馬 征峰	ジンバ マサミネ		大学院医学系研究科国際保健学専攻・教授	国際保健、ヘルスプロモーション 医学博士	ケアシステム分野担当
永田 智子	ナガタ トモコ		大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻・准教授	地域看護学 博士(保健学)	ケアシステム分野担当
森 武俊	モリ タケトシ		大学院医学系研究科ライフサポート技術開発学(モルテン) 寄附講座・特任教授	看護工学 博士(工学)	ケアシステム分野担当、生活サポートシステム分野担当
堀 洋一	ホリ ヨウイチ		大学院新領域創成科学研究科先端エネルギー工学専攻・教授	電気工学、制御工学 工学博士	生活サポートシステム分野担当
菅野 純夫	スガノ スミオ		大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻・教授	ゲノム医科学 医学博士	ケアシステム分野担当
加藤 直也	カトウ ナオヤ		医科学研究所先端ゲノム医学分野・准教授/大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻・兼任	消化器内科学 医学博士	ケアシステム分野担当、フィールド演習企画運営担当
鎌田 実	カマタ ミル		大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻・教授	生活支援工学 工学博士	プログラムコーディネーター補佐、生活サポートシステム分野担当、産官学連携推進担当
飛原 英治	ヒハラ エイジ		大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻・教授	熱工学、冷凍空調工学 工学博士	生活サポートシステム分野担当
岡部 明子	オカベ アキコ		大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻・教授	建築環境教育/環境学 博士	居住環境分野担当
檜山 敦	ヒヤマ アツシ		大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻・特任講師	ヒューマンインターフェイス 博士(工学)	生活サポートシステム担当
菅原 育子	スガワラ イコ		高齡社会総合研究機構・特任講師	社会心理学、社会老年学/博士(社会心理学)	社会システム分野担当
村山 洋史	ムラヤマ ヒロシ		高齡社会総合研究機構・特任講師	社会疫学、公衆衛生学、老年学/博士(保健学)	ケアシステム分野担当
後藤 純	ゴトウ ジュン		高齡社会総合研究機構・特任講師	都市計画、まちづくり、地域包括ケアシステム、総合老年学/工学博士	居住環境分野担当
Toni Claudette Antonucci	トニ クロデット アントヌッチ		ミシガン大学副学長 (Associate Vice President for Research, Social Sciences and the Humanities)	ジェロントロジー Ph. D.	国際連携アドバイザー
David English	デービッド イングリッシュ		ミズーリ大学法科大学院・教授	高齢者法 Ph. D.	国際連携アドバイザー
Sarah Harper	サラ ハーパー		Director, Oxford Institute of Population Ageing / Professor of Gerontology and Senior Research Fellow, Nuffield College, Oxford University	ソーシャルジェロントロジー Ph. D.	国際連携推進担当
Gyounghae Han	ギョングヘー ハン		Professor, Division of Consumer Studies and Child and Family Studies, College of Human Ecology, Seoul National University	Family Study Ph. D.	国際連携推進担当
Angelique Chan	アンジェリック チャン		Associate Professor, Department of Sociology, National University of Singapore and Duke-NUS Graduate Medical School	社会学 Ph. D.	国際連携推進担当
大内 尉義	オウチ ヲサヨシ		国家公務員共済組合連合会・虎の門病院長/東京大学・名誉教授	老年医学、老年学 医学博士	ケアシステム分野担当、産官学民連携アドバイザー
永田 久美子	ナガタ クミコ		社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター・研究部部長	認知症ケア、当事者ネットワーク 看護学修士	ケアシステム分野担当、産官学民連携アドバイザー
太田 秀樹	オウタ ヒデキ		医療法人アスミス 理事長	高齢者・障害者医療 医学博士	ケアシステム分野担当、産官学民連携アドバイザー
秋山 正子	アキヤマ マサコ		(株) ケアーズ白十字訪問看護ステーション 統括所長	地域看護、在宅医療連携 衛生看護学士	ケアシステム分野担当、産官学民連携アドバイザー
木村 昌平	キムラ ショウヘイ		一般社団法人日本家庭教育協会・会長/益子昌平塾・塾長/セコム株式会社・前会長	社会の安全安心の確保 文学士	産官学民連携アドバイザー

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成27年度における役割)
野呂 順一	ノロ ジュンイチ		(株) ニッセイ基礎研究所 代表取締役社長	保険数理、年金数理、経済統計学士(理学)	産官学民連携アドバイザー
濱 隆	ハマ タカシ		大和ハウス工業株式会社取締役常務執行役員/環境エネルギー事業担当	高齢者住宅開発、スマートコミュニティ開発工学士	産官学民連携アドバイザー
滝山 真也	タキヤマ シンヤ		株式会社ベネッセホールディングス執行役員/株式会社ベネッセスタイルケア代表取締役社長	介護事業等のグループ経営/修士(政策・行政)	産官学民連携アドバイザー
関根 千佳	セキネ チカ		株式会社ユーディット・会長兼シニアフェロー/同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科・教授	ユニバーサルデザイン法学士	産官学民連携アドバイザー
大熊 由紀子	オウマ ユキコ		国際医療福祉大学大学院教授	医療福祉ジャーナリズム 教養学士	産官学民連携アドバイザー
南 砂	ミナミ マサコ		読売新聞東京本社・取締役調査研究本部長	医療・医学、科学技術政策、メディア論 医学士	ケアシステム分野担当、産官学民連携アドバイザー
河出 卓郎	カワデ タカオ		(株) 毎日新聞東京本社・企画編集室/東京都健康長寿医療センター・非常勤研究員	社会保障論 文学士	産官学民連携アドバイザー
John Creighton Campbell	ジョン クレイトン キャンベル		ミシガン大学・名誉教授/高齢社会総合研究機構・客員研究員	ジェロントロジー Ph. D.	国際連携推進アドバイザー
宮島 俊彦	ミヤジマ トシヒコ		内閣官房社会保障改革担当室・室長/岡山大学・客員教授/日本介護経営学会・理事	高齢者ケアシステム 教養学士	産官学民連携アドバイザー

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 * (今後の募集予定: 有・無)	
プログラム募集定員数 (実数)	人	35人	35人	35人	
① 応募学生数	人	38人	34人	27人	
	うち留学生数	人	4人	5人	7人
	うち自大学出身者数	人 (人)	18人 (0人)	16人 (0人)	8人 (0人)
	うち他大学出身者数	人 (人)	20人 (4人)	18人 (5人)	19人 (7人)
	うち社会人学生数	人 (人)	10人 (0人)	8人 (2人)	10人 (2人)
うち女性数	人 (人)	19人 (3人)	13人 (2人)	11人 (4人)	
② 合格者数	人	36人	32人	24人	
	うち留学生数	人	4人	4人	6人
	うち自大学出身者数	人 (人)	17人 (0人)	15人 (0人)	8人 (0人)
	うち他大学出身者数	人 (人)	19人 (4人)	17人 (4人)	16人 (6人)
	うち社会人学生数	人 (人)	10人 (0人)	8人 (1人)	9人 (2人)
うち女性数	人 (人)	19人 (3人)	12人 (1人)	8人 (3人)	
③ ②のうち受講学生数	人	27人	28人	23人	
	うち留学生数	人	4人	4人	5人
	うち自大学出身者数	人 (人)	9人 (0人)	13人 (0人)	8人 (0人)
	うち他大学出身者数	人 (人)	18人 (4人)	15人 (4人)	15人 (5人)
	うち社会人学生数	人 (人)	10人 (0人)	8人 (1人)	9人 (2人)
うち女性数	人 (人)	16人 (3人)	12人 (1人)	7人 (2人)	
プログラム合格倍率 (①応募学生数/②合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	0.00倍	1.06倍	1.06倍	1.13倍	
充足率 (合格者数/募集定員)	0.00%	103.00%	91.00%	69.00%	

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成28年度 * (今後の募集予定: 有・無)については、平成28年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度						平成29年度	平成30年度
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計		
平成25年度選抜						0						0						0						0		
うち留学生数						0						0						0						0		
うち自大学出身者数						0						0						0						0		
うち他大学出身者数						0						0						0						0		
うち社会人学生数						0						0						0						0		
うち女性数						0						0						0						0		
平成26年度選抜							15	0	11	0	0	26	0	14	0	11	0	25	0	3	7	3	7	20		
うち留学生数							2	0	2	0	0	4	0	2	0	2	0	4	0	1	0	1	1	3		
うち自大学出身者数							8	0	1	0	0	9	0	8	0	1	0	9	0	2	4	0	1	7		
うち他大学出身者数							7	0	10	0	0	17	0	6	0	10	0	16	0	1	3	3	6	13		
うち社会人学生数							3	0	6	0	0	9	0	3	0	6	0	9	0	0	3	2	4	9		
うち女性数							7	0	8	0	0	15	0	7	0	8	0	15	0	2	2	2	6	12		
平成27年度選抜													12	0	12	0	0	24	0	11	0	12	0	23		
うち留学生数													0	0	3	0	0	3	0	0	0	3	0	3		
うち自大学出身者数													10	0	2	0	0	12	0	9	0	2	0	11		
うち他大学出身者数													2	0	10	0	0	12	0	2	0	10	0	12		
うち社会人学生数													3	0	3	0	0	6	0	3	0	3	0	6		
うち女性数													5	0	5	0	0	10	0	5	0	5	0	10		
平成28年度選抜																			8	1	11	0	0	20		
うち留学生数																			1	1	2	0	0	4		
うち自大学出身者数																			7	0	1	0	0	8		
うち他大学出身者数																			1	1	10	0	0	12		
うち社会人学生数																			1	0	5	0	0	6		
うち女性数																			1	1	3	0	0	5		
計	0	0	0	0	0	0	15	0	11	0	0	26	12	14	12	11	0	49	8	15	18	15	7	63		
うち留学生数																								10		
うち自大学出身者数																								26		
うち他大学出身者数																								37		
うち社会人学生数																								21		
うち女性数																								27		
修了者数(予定者を含む)	0						0						0						7						15	18
就職者数	0						0						0													
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	0						2						1						0							

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。
 ※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。
 ※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。
 ※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度					平成29年度	平成30年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成25年度選抜					0					0					0					0		
うち留学生数					0					0					0					0		
うち自大学出身者数					0					0					0					0		
うち他大学出身者数					0					0					0					0		
うち社会人学生数					0					0					0					0		
うち女性数					0					0					0					0		
平成26年度選抜						1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1		
うち留学生数						0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち自大学出身者数						0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち他大学出身者数						1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1		
うち社会人学生数						1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1		
うち女性数						1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1		
平成27年度選抜											4	0	0	0	4	0	4	0	0	4		
うち留学生数											1	0	0	0	1	0	1	0	0	1		
うち自大学出身者数											1	0	0	0	1	0	1	0	0	1		
うち他大学出身者数											3	0	0	0	3	0	3	0	0	3		
うち社会人学生数											2	0	0	0	2	0	2	0	0	2		
うち女性数											2	0	0	0	2	0	2	0	0	2		
平成28年度選抜																3	0	0	0	3		
うち留学生数																1	0	0	0	1		
うち自大学出身者数																0	0	0	0	0		
うち他大学出身者数																3	0	0	0	3		
うち社会人学生数																3	0	0	0	3		
うち女性数																2	0	0	0	2		
計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4	1	0	0	5	3	4	1	0	8		
うち留学生数																					2	
うち自大学出身者数																					1	
うち他大学出身者数																					7	
うち社会人学生数																					6	
うち女性数																					5	
修了者数(予定者を含む)	0					0					0					0					1	4
就職者数	0					0					0					0						
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	0					0					0					0						

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。

※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

(機関名:東京大学 類型:複合領域型(横断的テーマ) プログラム名称:活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム)

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【背景】わが国では、団塊世代の高齢化と出生率の低下により、2030年には65歳以上の高齢者が人口の約1/3を占め、75歳以上の「後期高齢者」も倍増して人口の約1/5を占める**超高齢社会が到来**する。また、韓国、シンガポールも、日本にやや遅れて2040年には高齢者人口が1/3を超え、中国でも2060年には高齢者人口が約1/3に達することが予測されている。

【課題】こうした急激な人口構成の変化に対応し、医療、介護、社会保障、居住環境、社会的インフラ、就業形態をはじめとした**社会システムを組み替える必要性**が目前に迫っている。この社会全体の変化を見通し、超高齢社会にむけて社会システムをリデザインする取組みを直ちに開始し、若い人、現役世代、高齢者の誰もが、人間としての尊厳と生きる喜びを享受しながら快活に生きて行ける、活力ある超高齢社会の実現に向けて挑戦していかなければならない。この課題に世界のトップランナーとして直面しているわれわれは、**高齢者の健康寿命を延ばし、経済活動・地域活動への参加を促すこと**によって**高齢者も社会の支え手とする社会システム**（および、それを支える居住環境システム）、**活動レベルが低下して介助が必要になった後も、施設収容により対応するのではなく、住み慣れた地域社会の中で、できるだけ自立的に活力を維持しながら暮らせる社会システム**（と居住環境システム）を実現するなど、**世界に先駆けてその解決策の先進的モデルを生み出す**ことが求められている。

【概要】本プログラムは、人生90年時代において、高齢者が活力を持って地域社会の中で生活できる期間をより長く、要介護や施設収容の期間を最小化することを通じて、高齢者のQOLを高めると同時に、家族と社会の負担を軽減し、高齢者と社会の活力を維持向上させることを目標に、**世界に先行するジェロントロジー教育研究の拠点である東京大学・高齢社会総合研究機構**を軸に、東京大学の有する世界トップクラスの大学院研究科である、人文社会科学、教育学、法学、総合文化学、工学、農学、医学、新領域創成科学、情報理工学の**9研究科30専攻等の総力を結集し、修士博士一貫の博士課程**による教育を通じて**活力ある超高齢社会を共創するグローバルリーダーの養成**に取り組むものである。

【特色】本プログラムでは、多様な関係分野の教員や産官学民連携諸機関および海外の大学等の国際連携機関のサポートの下で、選り抜かれた大学院生が**①ジェロントロジー（老年学）や高齢社会問題に関する講義**を通じ高齢社会問題に関する多様な分野に関する**俯瞰的総合的な知識**を獲得し、**②多様な他分野の専門家とチームを組んで課題解決に取り組むフィールド・アクション・スタディ演習**や国際的なコミュニケーション能力と多文化・多分野のチームワーク等を学ぶ**グローバル演習**を履修することを通じ、**グローバルなチームワーク力とリーダーシップ**および現実社会における**課題解決能力**を養い、**③所属専攻において培った深い専門的研究能力**を軸にしながら、高齢社会の様々な問題の解決に資する**独創的で質の高い博士の学位研究**を成し遂げることを通じ、**活力ある超高齢社会を共創するための能力**、すなわち、**①専門分野に関する新たな知見を深く掘り下げる専門的学術研究能力と、②ジェロントロジーや高齢社会問題に関する幅広い俯瞰力、③多分野の専門家チームを率いて問題解決に取り組む突出した課題解決能力**、の3つの能力を兼ね備えた、人材を養成しようとするものである。特に、学生の**グローバル・リーダーシップの養成**については、学生を**短期海外留学に派遣**する他、海外から**長期・短期の留学生を積極的に受け入れ**、各国・各地域の社会文化の多様性を実体験させるとともに、各国の政策担当者として渡りあえるだけの**論理展開力とコミュニケーション能力**を涵養する。

【優位性】東京大学の高齢社会総合研究機構を中軸に、世界トップクラスの9研究科30専攻等、産官学民連携ネットワーク、国際連携ネットワークで構成される体制により、**世界最優位の高齢社会研究拠点**が形成される。また、このプログラムを通じて、**①高齢社会問題に関わる実社会の動向や潜在的ニーズを踏まえた基礎研究**（たとえば高齢者の心と体の問題に関する研究）が**飛躍的に発展**するとともに、**②こうした基礎研究によって得られた新たな知見やエビデンスを基礎に、高齢社会の真のニーズに応える様々な素材、技術、手法、システムや制度が研究開発**されることが期待される。こうした超高齢社会の真のニーズに応え、政策提言につながるような、**斬新な研究課題**を、高齢者や高齢社会に関する俯瞰的実態認識を踏まえ、多分野の専門家との分野横断的討議の中から、**学生自身が主体的に見出して行けるよう、幅広い分野のプログラム担当教員やインストラクターが参加して学生の研究指導とディスカッションを行う分野横断的コアセミナー**を教育カリキュラムの中軸に据える。**③**また、本プログラムにより産み出された新たな知見や技術・手法は日本や世界で**産業のイノベーションや新たな産業分野の創出**をもたらすと同時に、**④本プログラムにより育成されたリーダーは、国内で活躍するだけでなく、高齢社会問題の世界最先進国である日本において創出された超高齢社会対応の諸施策のモデルや社会システムを、アジアや世界各国において各国のリーダー達と協働して当該国に移植・展開する活動を担う、まさに、グローバルなリーダーとして世界に貢献**することが期待される。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

